



Title	胃ポリープの組織化学的研究
Author(s)	進藤, 恒彦
Citation	大阪大学, 1964, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/28787
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

氏名・(本籍) 進 藤 恒 彦
 学位の種類 医 学 博 士
 学位記番号 第 5 6 4 号
 学位授与の日付 昭和 39 年 5 月 25 日
 学位授与の要件 学位規則第 5 条第 2 項該当
 学位論文題目 胃ポリープの組織化学的研究
 (主査) (副査)
 論文審査委員 教授 陣内伝之助 教授 宮地 徹 教授 清水 信夫

論 文 内 容 の 要 旨

目的：ポリープの臨床的、病理組織学的研究は極めて数多く報告されているが、組織化学的研究はほとんど報告されておらず胃ポリープの組織化学的特徴は不明と言える。私は胃ポリープを組織化学的に研究してその特徴をあきらかにすると共に、あわせて胃ポリープからの発癌の問題についても何らかの解決の糸口を見出すことが出来はしないかと考え、この研究を行なった。

方法：人体手術症例より胃ポリープ 49 例、ポリープ総数 110 個について次の如く分類した。

- | | |
|----------------|--------------|
| I, 胃上皮型ポリープ | IV, 腺腫型ポリープ |
| II, 大腸上皮型ポリープ | V, 異型上皮型ポリープ |
| III, 小腸上皮型ポリープ | VI, 癌ポリープ |

上記分類の各群について組織化学的に検討するとともに、Haewatoxinil-Eosin 染色による切除胃全般に亘る組織学的研究及び臨床的研究をも行なった。表 1 は私の行なった各種染色について、私達の研究室で得た種々の消化管上皮及び癌についての特徴を胃ポリープ上皮との比較のため参考までに記載したものである。

表 1. 各種消化管上皮及び胃び胃癌の組織化学的特徴

	コハク酸 脱水素酵 素	チトクロ ーム酸化 酵素	ミトコン ドリア	RNA	酸性フォ スファタ ーゼ	フォスフ オアミダ ーゼ	アルカリ 性フォス ファター ーゼ	ロイシン アミノペ プチダ ーゼ	PAS	アルシ ンブルー 染色
胃上皮	3+	3+	3+	3+	3+	3+	—	—	3+	—
小腸上皮	4+	4+	4+	4+	4+	4+	4+	—~4+	孟細胞 3+	孟細胞 3+
大腸上皮	1+	1+	1+	1+	1+	—~1+	—	—	3+	3+
胃癌	1+	1+	1+	4~5+	3~5+	4~5+	—	—~4+	1+	—~1+

註 胃上皮を基準 3+ とする。胃上皮 - は小腸上皮基準 4+, 5+ きわめて強い, 4+ 強い, 1+ きわめて弱い, - 陰性

成績：

- I, 胃上皮型ポリープ；110個中82個を占める。組織化学的には一般の胃上皮と大差を認めない。
- II, 大腸上皮型ポリープ；2個、形態的にも組織化学的にも大腸ポリープに極めて類似する。このポリープは文献的に記載がない。
- III, 小腸上皮型ポリープ；5個、化生小腸上皮よりなる。組織化学的にも一般の化生小腸上皮と大差を認めない。
- IV, 腺腫型ポリープ；9個、形態的にも組織化学的にも化生小腸上皮陰窩の細胞に近いと考えられる上皮からなる。
- V, 異型上皮型ポリープ；5個、極めて異型性の強い上皮からなり一見悪性を思わせるが浸潤、転移を認めない点良性のポリープである。組織化学的には胃癌と全く同様の特徴を示す。
- VI, 癌ポリープ；7個、早期のものから浸潤の進んだものまであるが、総て腺癌で組織化学的にも胃癌の特徴と全く一致する。

表2. 各種ポリープの組織化学的特徴

	コハク酸 脱水素酵 素	チトクロ ーム酸化 酵素	ミトコン ドリア	RNA	酸性フオ スファタ ーゼ	フォスフ オアミタ ーゼ	アルカリ 性フオス ファター ーゼ	ロイシン アミノペ プチダーゼ	PAS	アルシア ンブルー 染色
胃上皮型	3+	3+	3+	3+	3+	3+	—	—	3+	—
大腸上皮型	1~4+	1~4+	1~4+	1~4+	1~4+	1~3+	~1+	~4+	3+~-	3+~
小腸上皮型	4+	4+	4+	4+	4+	4+	4+	~4+	盃細胞 3+	盃細胞 3+
腺腫型	5+	5+	5+	5+	5+	5+	—	~1+	1+	~1+
異型上皮型	1+	1+	1+	1+	5+	5+	—	~4+	1+	~1+
癌	1+	1+	1+	1+	5+	5+	—	~4+	1+	~1+

胃ポリープと胃癌の合併例が49例中15例あり、これ等の胃癌は潰瘍辺縁早期癌1例、きわめて早期の粘膜内癌1例を含み、すべてがポリープ原性とは言えない。ポリープ以外の胃粘膜には著明な慢性胃炎像を見ることが多い。

総括：

1. ポリープ状に増殖しても上皮であり化生小腸上皮であれば特に組織化学的に異なる変化はみせない。
2. 大腸上皮型ポリープの如き特種なポリープの存在が組織化学的に発見された。
3. 異型上皮型ポリープ上皮は組織化学的に胃癌と同様の特徴を示す。
4. ポリープに伴う胃癌のすべてがポリープ原性とは言えない。

論文の審査結果の要旨

胃ポリープの組織化学的特徴はいまだ不明である。進藤は胃ポリープを組織化学的に研究し、その特徴を知るとともに胃ポリープからの発癌の問題についても組織化学的な面からその解決をはからんとした。

従来 adenomatous polyp として一括して論じられていた胃ポリープを上皮の種類によって 6 群に分類し、大腸上皮型ポリープを上皮の種類によって 6 群に分類し、大腸上皮型ポリープ群として分類した如き特種な胃ポリープ存在を組織化学的に発見した。一方異型上皮型ポリープ群として分類した胃ポリープは悪性化の問題についてしばしば論議の対照となっているが、本群のポリープ上皮は種々の組織化学的染色法で胃癌と全く同様の反応を示すことをあきらかにした。さらにポリープを有する胃の他部粘膜からの発癌の問題等、胃癌と胃ポリープの関係について数々の新知見を得た。